

初めてのフィリピン、初めてのミンダナオ

山田カネ



奨学生アナリンさんのエスコート
でトライスクル初体験

昨年11月25日から12月2日迄のミンダナオ行きは、今考えると冒険だった。78歳、変形性膝関節症でストック2本が頼り。英語は話せず、その上難聴が重なるのだから。25日マニラに一泊。翌日ミンダナオ、ジェネラルサントス空港に到着。直ちに神父様迎いの頑丈な四輪駆動車で「ティボリ」の人達の住む高地へ。川を横切り、でこぼこ道を前後左右上下と思いきり揺られながらやっと到着。十数人の子供達と大人。エンジンを水で冷やしている間、子供達と身振り手振りで時を過ごす。一番嬉しかったのは、あの高地に水道が引かれていたこと。コンクリートで作られた箱形、蓋なしの水場で洗髪をしたり、体を拭いている姿が見られたこと。日本の協力で作られたとの看板も。

小休止の後下山。再びでこぼこ道を登る。ミンダナオ滞在中、最高に景色の良かった所(写真)。神父様が用意してくださった昼食をいただき、食後子供達にノートや鉛筆を配った。嬉しそうに胸に抱えた子供達の笑顔が忘れられない。何日目だったか、山崎さんが湖を背にした仕事場兼店内で「仕入れ」をしている間、私は自由に製品を見ることができ、土産選びを楽しんだ。

別の日も相変わらず山に向かった。立ち寄った静かな村で、薄暗い部屋にギターを「たて長」にしたような楽器があった。そのうち奥からバイオリンの弓のような物を持ち出し静かに弾いてくれた。それ迄隅のほうでニコニコ見ていた「出産」間近と思える女性が、布を被り楽器に合わせて舞ってくれた。楽器は何年ぶり、何十年ぶりに音を出したのだろう。そして、弾いてくれた年輩の女性は……。何気なく目にした足の爪はきれいに彩られていた。ずーっと手を振って見送ってくれた二人。



サランガニ湾を遠望できる
スフォ村のスタッフハウスで

日本に帰る日の朝、手作りの「首飾り」が届けられていた。山行中、川を横切ること数回。一度は広めの川を逆送し驚かされたりも……。ジェネラルサントス空港に着いたときも去るときも、真っ青な空が出迎え、見送ってくれた。感謝。(山田さんは教育支援の新会員です)

自分が住む地域で、長年このような支援活動がされていたことを知り、感銘を受けています。

支えてきた方達と現地ミンダナオ島の方々との心のこもった交流に参加できて嬉しいです。

(水野真美)

木曜日の担当になった小林です。自宅からは徒歩で十数分の近さです。趣味はお箏。次こそもっと上手にと思いながら老人ホーム訪問を続けています。

(小林佐智子)

スタッフ・
ボランティアが
増えました！



1/20 月例会
(駅前事務所)

ホームページの協力ができたらと
参加しました。

私は奨学金を受けて、大学を卒業できましたので、HANDS の活動でも将来につながる教育支援でお役にたてたらと思います。

(高山好主)

祖父母の代にペルーに渡った日系3世です。在日外国人のためのWebsiteを手伝っていて、HANDSでも楽しいホームページ作りに協力したいと思います。

(原口カルロス)